



ロジ万博

まちについて「考える」ロジの実証実験

くまもと古町地区実証実験〈五感散歩 2023 秋〉

2023年(令和5年)11月18日(土) 13:00~17:00

撮影：新潮社 菅野健児

経緯

- ・2021年度（令和3年度）、熊本市と一般社団法人 KIMOIRIDON の調査の一環で複数の低未利用地の地権者と協議し、連続的に利用できる敷地を見出しました。
- ・一方、2019年（令和元年）、熊本大学院田中智之教授により、通りのオモテの機能をロジに付加しながら桜町から熊本駅周辺まで歴史や緑でつなぐ「ロジ・リンク・シティ」構想が発表されていました。
- ・そこで、古町地区において、低未利用地をロジとして開放する実験に四者（市、一社、熊大、UR）で着手することにしました。

2050年の新町・古町ビジョン

ロジ・リンク・シティ

みどりと歴史の回廊による多重性都市の提案
熊本大学大学院先端科学研究部教授 田中智之 20190906

- ＊研究の一環で作成した提案イメージであり、実際の場所や建物とは関係ありませんので、予めご了承ください。



2022年5月「知る」



2022年11月「使う」



2023年6月「楽しむ」



2023年11月「考える」



実証実験の意義

- ・ロジ実験はもとより古町地区で実証実験として展開している「五感散歩（©KIMOIRIDON）」は、次世代におけるコミュニティのあり方を探りつつ、古町地区におけるより良い暮らしを実現することを第一義的な目標としています。
- ・これにより古町のアイデンティティ（個性）の確立とエリア価値の向上を目指し、ひいては古町らしい賑わいに繋がたいと考えています。
- ・まずは、地域の皆さんに支持される取り組みを優先していますので、単純な集客イベントとは一線を画しており、毎回テーマを設定して実施・検証しています。

ロジ実験のこれまでの流れ

- ・2022年（令和4年）5月に、プレ実験として「知る」ことを目標に、参加者を限定したモニター制で唐人町から万町まで繋ぎ、ワークショップを開催しました。歩行者が通り抜けることが可能であることを確認し、特に子どもの遊び場としての期待が大きいことが把握できました。
- ・同年11月に本実験として「150mのロジづかい」を開催しました。「使う」ことを目標とし、上記プレ実験の一部の区間について可能な限り借り上げ、子どもの遊び場など多数のコンテンツを入れるを試みを行いました。約300人を集客し「使う」ことが可能であることが確認できました。
- ・2023年（令和5年）6月には、低未利用地の複数を繋がず、1つの敷地において運営負担を軽減させた場合の効果を検証するため、「楽しむ」ことを目標に「子どもの遊び場&大人もゆるっと」を開催しました。運営の負担を軽減しても一定の成果を得ることができました。

「ロジ万博」について

これまでの実験では、ロジ空間を「知る」こと、「楽しむ」こと、「使う」ことについて試みてきましたが、今回はまちについて「考える」機会を提供することとしました。そこで「ロジ万博」と銘打ち学生さんの日頃の研究成果を専門別のパビリオンに展示し、来場者にとっては説明を受けながら古町地区の現状分析や提案などに触れることができる貴重な機会となりました。

あわせて、ロジの魅力アップを図るため、地元店舗の outlet や休憩所の設置にもチャレンジしました。今回は仕組みづくりの検証に重点がありましたが、今後の賑わいづくりのためのヒントや課題を得ることができました。引き続き、暮らしを豊かにするためにどのような機能が必要かについて検討していきます。

子どもの遊び場については、ロジ実験の初動期から熊本大学教育学部有志の皆さんのご協力を得ており、「子どもの遊び場不足」という地域課題から、「地域で子どもを育てる環境づくりの意義」という次のステージに対する課題も見えてきました。



パビリオン

● まちづくり提案

- ① 唐人町通りのみちづくり(市)
- ② 水辺のみちづくり(熊大)
- ③ ロジのみちづくり(熊大)
- ④ 空き地を利活用する(熊大)
- ⑤ (空き地・空き家研究会)

● 工作&子どもの遊び場

- ① 音楽(楽器・歌)(熊大)
- ② ものづくり(熊大)
- ③ リース作り(14:00~16:15)
- ④ ボードゲーム
- ⑤ 芝生広場

● 地元店舗

- ① 凹凸Tacos
- ② TRUSS GENERAL STORE
- ③ 大生ファミリー
- ④ 早川倉庫
- ⑤ プリスティン

● のんびり

- ① 休憩所
- ② キッシュカフェ

● 唐人町通り実証実験

- ① みちの庭

● 案内

- ① インフォメーション
- ② 自転車置き場
- ③ 仮設階段

① 唐人町通りのみちづくり 【熊本市】

唐人町通りの道路整備について、設計の途中経過をご紹介します。また、緑化の実証実験として設置しているプランターやベンチを「みちの庭」として会場に設置しました。



③ ロジのみちづくり 【建築デザイン】

路地(ロジ)や空き地を活かしたまちづくりビジョン「ロジ・リンク・シティ」の紹介と空き家再生プロジェクト、学生による古町の調査等を展示しました。



② 水辺のみちづくり 【土木デザイン】

学生による坪井川を活かした水辺広場の提案および水辺デザインの実践例を紹介しました。



④ 空き地を利活用する 【都市計画】

中心市街地に広がる低未利用地(空き地等)の現状分析と利活用事例を紹介しました。くまもと空き地・空き家研究会によるスポンジ化の現状も併設しました。



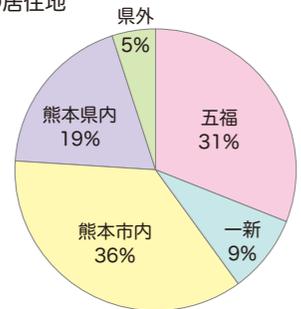
アンケート結果

来場者

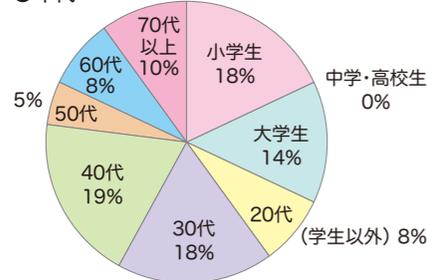
●パンフレット配布数：約 120 冊
(来場者数は推計で約 130 人)

●アンケート回収数：66 票

●居住地



●年代



良かったこと

●子どもの遊び場 (21)
子どもが楽しめた (4) / 子どもの遊べる空間がある (7) / 子どもがたくさんいた / 工作、ものづくり (4) / ゲーム (2) / ブロックで遊べた (2) / リースづくりワークショップ (2)

●まちづくり提案パビリオン (20)
研究室による展示 (7) / まちづくりの現状を知れたこと / いろいろな問題提起 / 街作りについて考える機会になった / 大学生が詳しく調べている展示が見られて勉強になりました / 近くに住んでも知らない事は多々あるな... / 学生の発表 / 各研究室の取り組みを学生が説明してくれたこと / 大学生ががんばっていたこと / 学生も含め皆でまちを盛り上げていた / 田中研究室 / 水辺の町づくりに関して詳しく説明していただいたこと / パビリオン④(本間研 / スポ研) が良かった! / タナパーの田中先生にお会いできたこと

●その他 (12)
人工芝生があったこと / 蚤の市、万博 / 肌年齢とかするやつ / ロジの中を通り抜けたこと / 古いものを現代に引き継いでいる / すべて / やり方を分かりやすく教えてくれたこと / ゆったりと会話 / たくさんのコーナーがあったこと / 古町にあそびに来るきっかけになった / チェックリスト / 若手がやっているからよい

まちづくりへの示唆

今回の展示には「まちを知るきっかけになった」「興味湧いた」「スポンジ化が可視化されていて驚いた」「空き家率にびっくり」「半分も町屋が減っていてショック」等の感想をいただきました。

古町地区の現状については「マンションと駐車場だらけなので居心地が良くない」という意見の一方で「空き地は駐車場など生活に必要な部分もある」との声もありました。ロジ実験については「ロジの活用は有効」「楽しかった」「一町一寺という歴史を生かしながらのまちづくりが面白い」「環境を活かしたまちづくりが素敵でした」「ロジの使い方での魅力が上がる」等のご意見がありました。

さらに、古いまちに対して「古い街並みが良い」「残したい」「もったいない」「古町のいいところはぜひそのままに!!」との指摘があり、将来像として「特色のある町にしたい」「個性があり中心に近いことを活かして住みよい場にしたい」「活性化していきたい」「盛り上げたい」「人に来てほしい」等のイメージが挙げられていました。

その他、災害対策や古民家のリノベーション、子どもや大人が互いに集い楽しめる場所等への意見があったほか、今回の取り組みを進展させ「研究室同志の連携があっても良いのではないか」とのご提案もありました。

ロジ空間について

●熊本大学の田中智之先生が提唱された「ロジ・リンク・シティ」は、通り(オモテ)の機能をロジ(ウラ)に反転させ繋いでいく提案です。

●「路地」と言えば、一定の年代以上の方は遊んだり、おしゃべりをしたりとイメージが沸くかもしれません。今回の試みの対象となっている駐車場は現代において必要な空間です。一方で時間でみる利用率は半分に留まり、将来的に自動運転が普及すると土地利用のあり方も変化します。

●私たちの試みは、一町一寺の古町地区で、古き良き路地の雰囲気と、今後のまちに求められる都市機能を融合させた新しい形の「ロジ」を見つけ出すことで、まちの個性を創出し、ひいてはより良い暮らしへと導くことを目指しています。

「ロジ」の様子



検証

●今回の実験は「考える」というテーマで、大学等からまちづくりの現状や提案を報告いただきました。これまでの「楽しむ」というテーマと比べてやや硬い内容となることが心配されましたが、ご来場いただいた方々からは「古町地区について考えるきっかけとなった」と好評を得ました。引き続き「考える場」を設け、まちの将来について語り合うことが有効だと考えられます。

●「ロジ」の設えについては、仮設での環境づくりが毎回の課題となっています。今回は唐人町通りの緑の実験からプラントを会場に移設する「みちの庭」を展開してみました。今後も①安全の確保、②緑化等による居心地の良さの演出、③サインの設置など、いずれも運営方法やデザイン等についてシステム化する必要があります。

●地域課題である「子どもの遊び場」は継続的に取り組んでいることから認識が深化しています。子ども達が単純に遊ぶだけではなく悩みを学生さんに相談したり、一緒に遊ぶことを学んだり、あるいは親御さんにとっても充実した場となっています。「子育てに対して地域がどのように貢献できるか」が新たな課題認識です。

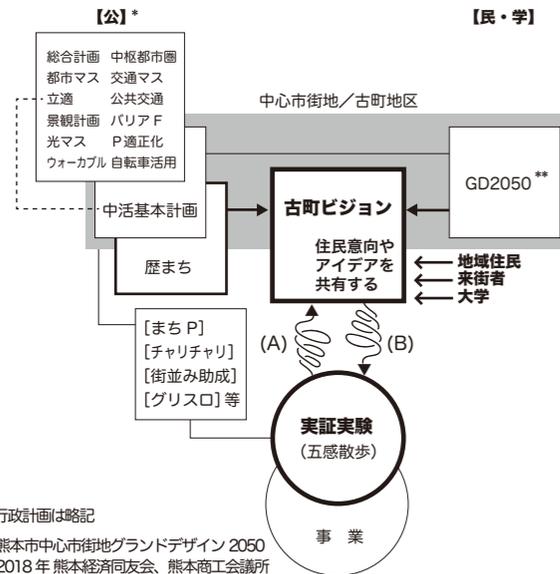
●「ロジ」の運営に対しては、将来的に様々な都市機能の導入が期待される中で、店舗の出店に初めて取り組みました。運営するための仕組みづくりのきっかけとして出店料の徴収も試行し、今後の運営システムを構築するための手がかりとなりました。

●さらに、参加している学生さんにとっては実際の社会・現場を経験できる貴重な機会となっており、来場者にとっては若い年代と話す機会となっています。また、民地を利用させていただくにあたり地権者様等には大変なご協力をいただいています。今後も推進体制の強化、エリアマネジメントの確立に向け関係者様との協議を続けていきます。

今後の展望

▶ 3つの方向性に従い目標の達成を目指します。この目標の達成には全体フレームを構築する必要があり、少しずつ取り組み、実現・強化していきます。

▼ 今回の実験で、まちのビジョン（将来像）を共有することが重要であるとのこと意見がありました。実験の結果をビジョンに反映する方向（A）と、ビジョンを実現させるための方向（B）の両方の取り組みが必要だと考えています。
また、展示の内容をもっと聞きたい・考えたいという声もあり、別途地域で考える機会を設けていきたいと考えています。



*行政計画は略記

** 熊本市中心市街地グランドデザイン 2050
2018年 熊本経済同友会、熊本商工会議所

全体フレーム

